

資料

2017年度における生物（動物関係）に関する問い合わせ状況

中島 淳・石間妙子・金子洋平・須田隆一

当所で窓口依頼検査以外で回答した動物に関連する問い合わせの内容について概要をまとめた。2017年度は電話や持ち込み、電子メールによる質問が54件であった。問い合わせは県庁各課・保健福祉環境事務所・県警察等の県機関から29件、市町村から13件、民間業者から4件、一般県民から8件であった。このうち特定外来生物であるヒアリ類疑い種の同定依頼は12件と急増した。また、同じく特定外来生物であるツマアカスズメバチ疑い種の同定依頼は8件、ゴケグモ類疑い種の同定依頼は4件であった。

[キーワード：衛生害虫、ペストコントロール、アリ、ハチ、クモ、タガメ]

1 はじめに

当所では窓口依頼検査として生物同定試験を実施しているが、それ以外にも日常的に電話や持ち込み等による生物に関する問い合わせに答えることが多い。本報では2017年度に寄せられた質問のうち、動物に関連するものについてその内容をまとめた。

2 方法

動物に関連する各問い合わせについて、依頼元を県、市町村、民間業者、一般県民、その他の5つに区分した。また、質問内容については一般的な不明種に関する同定依頼、ゴケグモ類疑い種（セアカゴケグモ、ハイイロゴケグモ）の同定依頼、マダニ類疑い種の同定依頼、ツマアカスズメバチ疑い種の同定依頼、ヒアリ類疑い種（ヒアリ、アカカミアリ）の同定依頼、生物多様性・外来種に関する一般的な質問、その他、の7項目に区分して整理した。

3 結果及び考察

表1に2017年度の月ごとの問い合わせ件数を示す。全体で54件の問い合わせがあり、最も問い合わせが多かったのは9月の12件で、次いで8月が10件、7月が9件であった。一方で、11月から3月にかけての問い合わせはいずれも0-3件と少なかった。全体の問い合わせ件数は2010年度が24件、2011年度が24件、2012年度が57件、2013年度が68件、2014年度が52件、2015年度が51件、2016年度が55件であり¹⁾、問い合わせ件数は前年度と同程度であった。

図1に問い合わせの依頼元と件数を示す。問い合わせは県機関からのものが最も多く、県機関では保健福祉環境事務所からの問い合わせが多かったが、ほぼすべての場合において所管市町村または県民からの質問の仲介であった。市町村からの依頼も同様に一般市町村民からの質問の仲介であった。依頼元の傾向は過去と比較して、大きな違いはなかった。

表1 各月における内容別の問い合わせ件数

質問内容	月												計
	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	
不明種同定依頼		6	5	1	2	5	3	1				1	24
ゴケグモ類疑い		1			1	2							4
ツマアカスズメバチ疑い			1	2	2	2		1					8
マダニ類疑い				1									1
ヒアリ類疑い				5	4	2	1						12
生物多様性・外来種					1								1
その他			1			1		1			1		4
計	0	7	7	9	10	12	4	3	0	0	1	1	54

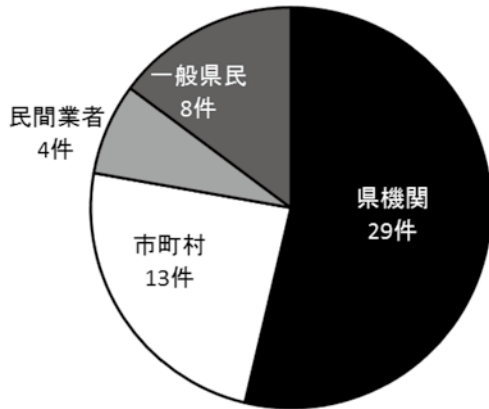


図1 2017年度における問い合わせ元の件数

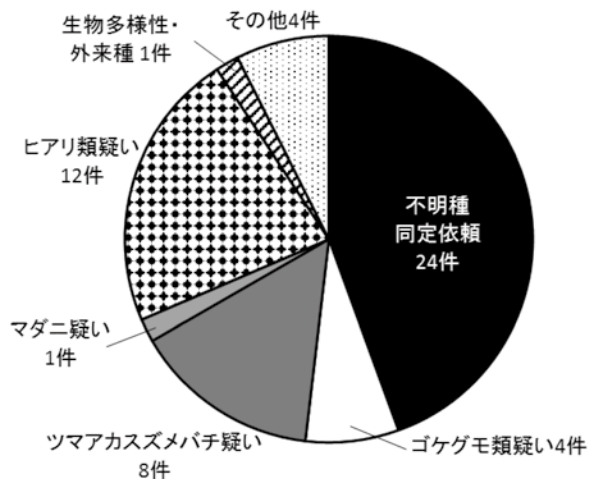


図2 2017年度における内容別の問い合わせ件数



図3 新宮中央駅前の公園で発見されたタガメ

問い合わせの具体的内容は不明種に関する同定依頼が24件と最も多く、次いでヒアリ類疑い(12件)が多かった(図2)。これまで当所にヒアリ類疑い種に関する問い合わせ事例はなかったが、2017年7月21日に福岡市内(博

多港)でヒアリが、同9月29日に苅田町内でアカカミアリが発見され²⁾、その情報が連日報道されたことにより一般県民の注意・関心が高まったことが件数急増の理由と考えられる。なお、寄せられた問い合わせ12件のうち、ヒアリ類と同定されたものはなく、その内訳はヒメアリ(2件)、オオハリアリ(1件)、ヤサアリグモ(1件)、ケアリ属(1件)、同定不能(ヒアリ類以外)(7件)であった。

ゴケグモ類疑い種として問い合わせがあった4件のうち、セアカゴケグモであったのは2件で、その他はオオヒメグモ(1件)、タカラダニ類が付着したザトウムシ類(1件)であった。また、ツマアカスズメバチ疑い種として問い合わせがあった8件は、ヒメスズメバチ(2件)、コガタスズメバチ(2件)、キイロスズメバチ(1件)、ニッポンハナダカバチ(1件)、ヨツスジトラカミキリ(1件)、同定不能(1件)であった。

その他の不明種同定依頼において種まで同定できたのは、ハルゼミ、タガメ、チャバネアオカメムシ、ツヤアオカメムシ、オオカマキリモドキ、ゴマダラカミキリ、コアシナガバチ、スナヤツメ、ニホンマムシ、コーンスネーク、アオダイショウ、アカミミガメ、ケヅメリクガメ、アオバズク、タヌキで、いずれも1件ずつであった。

このうちタガメは2017年10月19日に新宮町新宮中央駅前の沖田中央公園内の池で発見されたもので、羽化から間もないと思われる生きたオス成虫であった(図3)。本種は福岡県版レッドデータブックでは絶滅危惧IA類に選定されているが、すでに県内では絶滅している可能性が高いことが指摘されている³⁾。福岡市や北九州市では2008年から2009年にかけて人為的な放虫に由来すると思われる同時多発的なタガメ発見事例があり⁴⁾、今回の発見地周辺には生息に適した環境は残されていないことから、この個体も同様に人為的な放虫に由来するものと考えられる。なお、本個体は標本化し当所で保管している。

文献

- 1) 中島 淳ら：福岡県保健環境研究所年報，44，137-138，2017。
- 2) 福岡県：特定外来生物「ヒアリ」及び「アカカミアリ」に関するお知らせ，
<http://www.pref.fukuoka.lg.jp/contents/tokuteigai-raiarirui.html> (2018/6/20アクセス)
- 3) 福岡県：福岡県の希少野生生物 福岡県レッドデータブック2014，2014，(福岡県，福岡)。
- 4) 井上大輔，中島 淳：福岡県の水生昆虫図鑑，2009，(福岡県立北九州高校魚部，北九州)。